

ごあいさつ



山梨県テニス協会

会長 土屋 金 藏

山梨県テニス協会は、昭和41年5月14日に創立発足して以来、本年50周年を迎えることとなりました。この大きな節目を協会発展のためご尽力いただきました皆様方と共に祝福できますことは、この上ない慶びであります。

当時協会創立に関わった者の1人として振り返ってみますと、昭和28年10月に山梨大学硬式庭球部が創部され、活動を開始しました。そして、昭和33年に卒業したテニス部員（加々美洸氏）が三和電線工業（株）甲府工場に就職しました。工場長の山田茂男氏（初代会長）は20歳頃より硬式テニスをやっていたので、工場内のコートや総合グラウンドのコートでテニスを楽しんでおり、偶然、私と加々美氏が会い、ときどき三和電線チームとテニスを楽しむようになり、だんだん愛好者が集まって活動を始めたので、甲友会テニスクラブを結成し、テニスを楽しむようになりました。このことが協会設立へとつながっていきました。

さて、協会発足当日の行事は朝日生命保険相互会社の朝日生命テニス教室が開催され14・15の両日デ杯選手によるエキシビジョンマッチやレッスンが行われ、非常に有意義でありました。これは本県出身、朝日生命厚生事業団常務理事 野澤豊輔氏、日本テニス協会事務局長 久保圭之助氏のご指導により、開催できましたことを深く感謝しています。教室の指導者は藤川博会長、野澤豊輔常務理事、「渡邊康二、柳恵誌郎、小西一三、以上デ杯選手」、半田哲也、デ杯監督鶴原謙造、女性アシスタント2名でした。

なお、野澤豊輔氏は関東テニス協会理事として、後進県の強化のために、北関東庭球大会を企画し、42年第1回を茨城県で開催するように準備してくださいました。この大会は一般男女・教員・高校男女の5種別、国体方式で実施され、選手強化は勿論、準備運営等を経験する交流大会として、非常に有意義でありました。この大会は第20回をもって終了しましたが、本県の成績は残念ながら総合成績4位が殆どでありました。

また、日本テニス協会は各地区新進強化育成のため、学生選手派遣事業を実施しており、県協会も毎年派遣を要請し、強化合宿を実施してきました。その成果もあって高校男子は関東地区予選を勝ち、昭和43年より6年連続本大会に出場できました。

創立年度の県協会事業は、県選手権、国体県予選、国体出場選手強化合宿、県体育祭、テニス講習会でしたが、第1回県選手権の参加数は男子シングルス28（内、学生21）、女子シングルス7（内、学生6）、男子ダブルス13（内、学生8）、壮年シングルス5の状況で梨大生が殆どでありました。

昭和46年石和グランドホテルが県下で初めてコートを持つ会員制のテニスクラブをつくったことから、次第に同様なクラブが誕生し、テニスの普及発展に貢献しています。因みに、昭和51年県選手権の参加数は男子S130、D58、女子S66、D64と増加しました。

さて、この50年間における本協会の最大事業は、昭和61年第41回かいじ国体の運営と選手強化でありました。特に新設16面のサーフェースは、当初クレイに決定していましたが、山梨県県民スポーツ事業団アドバイザー坂井利郎氏の指導助言により、全天候型で国体後の利用管理に容易な砂入り人工芝への変更でした。当時採用していた施設は、神戸市のユニバーシアード会場のコート、東京女子体育大学のソフトテニスのコートぐらいでした。かいじ国体の採用は以後全国の施設に広がり、競技の普及、生涯スポーツの推進に大いに貢献したと思っています。変更にご指導とご協力を頂きました関係者各位に心より感謝しております。

かいじ国体では天皇杯、皇后杯を獲得し、テニス競技として初めて開催県が総合優勝という快挙を成し遂げることが出来ました。これも関係する多くの方々のご指導とご協力のたまものと深く感謝しております。なお、平成26年度長崎国体では成年女子が初優勝、皇后杯の荣誉にも輝きました。

また、昭和63年第1回全国スポーツレクリエーション祭の開催、平成4年第5回全国健康福祉祭・ねりんピックの開催は、国体で培われた協力体制で無事終了することができました。この大会の県内版は現在も実施されており、テニス愛好者の楽しみの大会となっています。これからも生涯スポーツの楽しいプログラムの一つとして、大会参加者の増加を図っていきたいと考えています。

本県には、日本における硬式テニスの導入を最も早く提言した三神八四郎氏（大正6年第3回極東競技大会ダブルス熊谷・三神で優勝、大正8年第4回同大会シングルス優勝）がいます。また、志村彦七氏（昭和3年全日本庭球ランキング、シングルス9位、ダブルス山岸・志村で1位）も選手として活躍しています。この偉大な先輩たちの業績に一步でも近づけるように、本協会は事業を推進してゆくつもりです。

これからも関係各位のご指導とご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。